

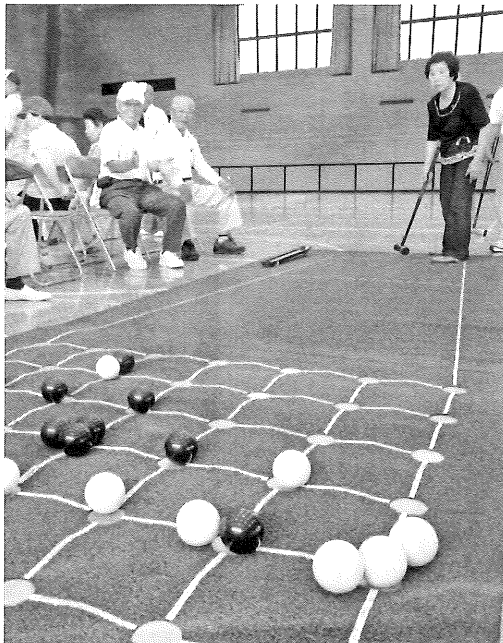
さあ、**囲碁ボール**をはじめよう！

概 要

囲碁ボールは、兵庫県丹波市で町おこしの一つとして、地域にまつわる故事「碁掛けの勝負」にちなんでニュースポーツ「囲碁ボール」が誕生した。

白と黒のボールをマット上の49個の目（穴）を取り合う競技である。

特に、五目並べの要素を加味した奥の深い競技でもあるが、子どもから高齢者まで、年齢、性別、体力を問わず誰でも簡単にでき、みんなで楽しめるスポーツである。



場 所

原則的には室内競技である。

また自動車1台分のスペースがあればできる。

用 具

囲碁ボールマット

＊縦5 m、横2 mの人工マット

＊49個の目（穴）

ボール

＊硬質プラスチック製（直径7 c m）

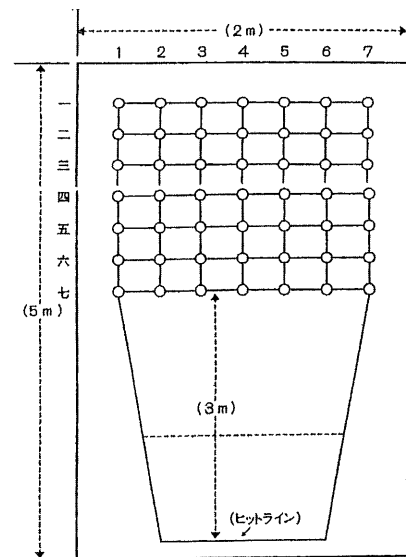
＊白・黒各10個

スティック（木製）

人 数

- シングルス （1人対1人）
- ダブルス （2人対2人）
- トリプルス （3人対3人）
- 変則的な人数も可能

囲碁ボールマット見取図



競技方法

① 1局中に1人が打つボール数

対戦方法	1人の打つボール数	チーム
シングルス	10個	10個
ダブルス	5個	10個
トリプルス	2人が3個、1人が4個	10個

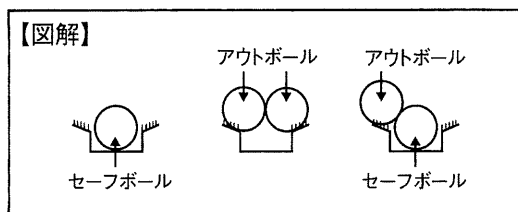
- ② ボールをヒットできる位置は、ヒットラインの後方でラインの幅の範囲。
- ③ ボールを打つ回数は、ボール1個につき1回限りである。
- ④ 打ったボールがマットの手前に停止しても、その局が終了するまでそのままの状態競技を続行する。
- ⑤ 5局が終了するまで、同じ色のボールを使用する。

ゲームの進め方

- ① ヒットラインに整列し、トスで先攻後攻を決める。
 - * 先攻（トスで勝ったチーム：黒）
 - * 後攻（トスで負けたチーム：白）
- ② ヒット（スティックでボールを打つ）順は、黒チームと白チームが交互に打つ。
- ③ 両チームが全てのボール（黒・白各 10 個）を打ち終わることを「1局」という。
- ④ 1局が終われば、アウトボールを取り除き、セーフボールの得点を記録する。

セーフ・アウトボールの判定

【図解】



得点の数え方

得点には、「ライン得点」と「ポイント得点」がある。

ライン得点

自分のチームのボールが縦・横・斜めのいずれかの目（穴）に 3 つ以上並ぶとライン得点となる。

並んだ数を「目（もく）」といい、出来た組数を「連（れん）」という。ただし、6 目以上は無効となり、ライン得点にはならない。

ポイント得点

セーフボールとして「目」に入っているボールの数がポイント得点となる。

10 個のボールすべてがセーフで、ポイント得点「10 点」の場合は、ポイント得点のほか、特別にライン得点「5 目 1 連」が与えられる。

1 局の判定

ライン得点を優先して判定する。

① 初めに「ライン得点」を見る。

5 目、4 目、3 目の順に、多い「目」から「連」の数を見る。

- * 数の多い「目」があるチームが勝ち。
- * 「目」が同じ場合は、「連」の多いチームが勝ち。

② 次にポイント得点を見る。

ポイント得点の多い方が勝ち。しかし、ライン得点を優先するため、いくらポイント得点が多くても、勝ちにならない場合がある。

ライン得点がすべて同じ場合のみ、ポイント得点の勝負となる。

勝敗判定例

- ① 両チームとも 5 目があるので、4 目のある A が勝ちとなる。

チーム	目	1 局	2 局	3 局	4 局	5 局	合計	勝敗
黒	ライン得点	5				1	1	勝
A	ポイント得点	4		1			1	
	ポイント得点	2	5	6	5	7	25	
白	ライン得点	5		1			1	勝
B	ポイント得点	4			1	1	4	
	ポイント得点	5	7	7	6	7	32	

- ② 両チームともライン得点が多いため、ポイント得点が多い A が勝ちとなる。

チーム	目	1 局	2 局	3 局	4 局	5 局	合計	勝敗
黒	ライン得点	5						勝
A	ポイント得点	1		1		1	3	
	ポイント得点	5	3	5	3	6	22	
白	ライン得点	5						勝
B	ポイント得点	4				1	3	
	ポイント得点	2	6	2	6	5	21	

お問合せ先

【ルール・講習会について】

囲碁ボール協会（事務局）
TEL 0795-72-0021

【用具等について】

囲碁ボール製造部（由良）
TEL 0795-71-1187
FAX 050-3737-1736